

Ⅲ 調査結果

① 第1回アンケートの結果

1 健康に関する意識（実態）について

1-1 健診や人間ドックの受診経験

◎ 健診（検診）や人間ドックを受けたことが「ある」人は63.2%

問1 あなたは過去1年間に、健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けたことがありますか。

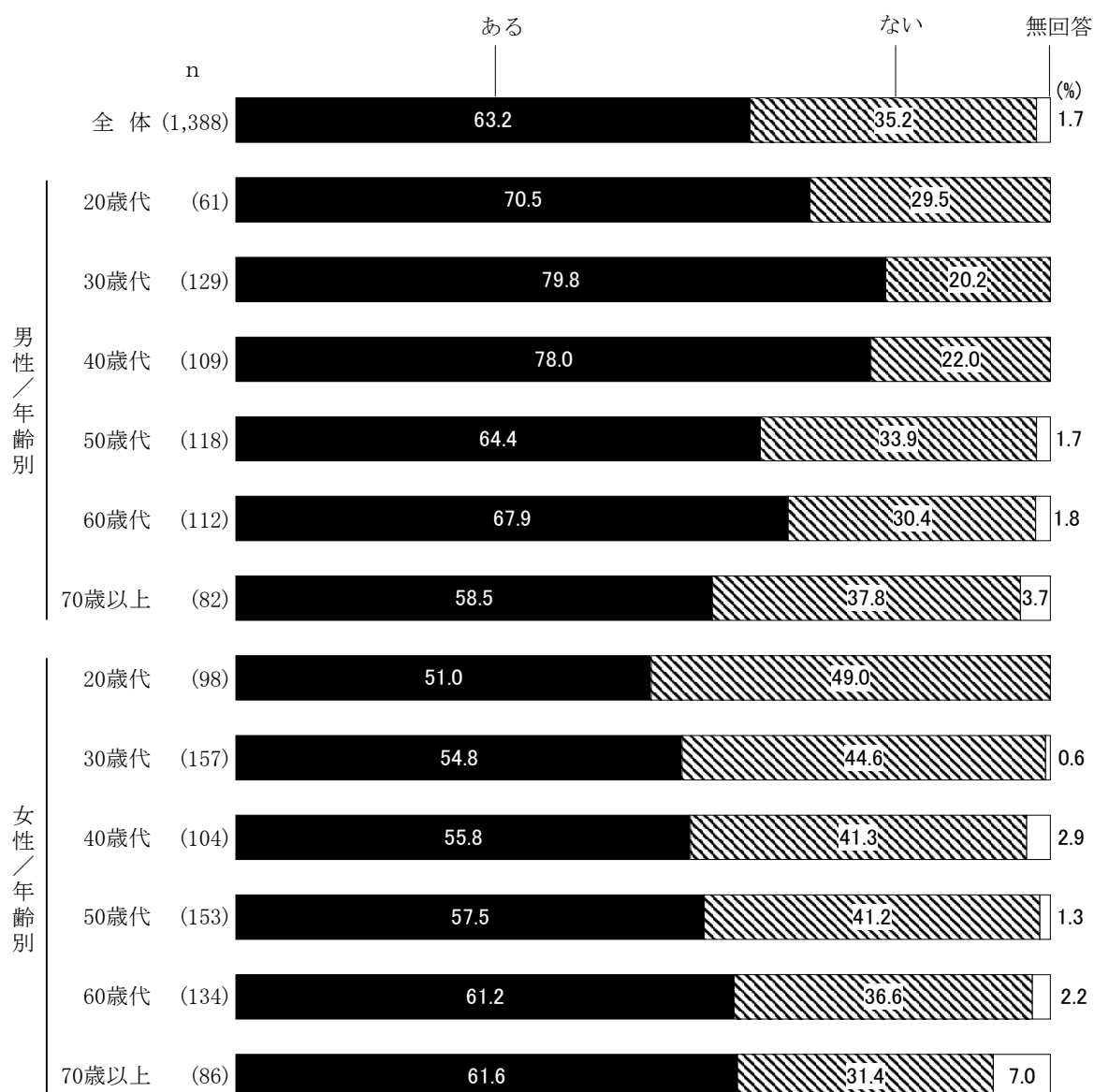
（がんのみの検診、妊産婦検診、歯の健康診査、病院や診療所で行う診療としての検査は、健診に含みません。）
（○は1つ）

図表1-1 検診や人間ドックの受診経験



過去1年間の健診（検診）や人間ドックを受けたことが「ある」人は63.2%、「ない」人は35.2%となっている。（図表1-1）

図表 1－2 健診や人間ドックの受診経験（性／年齢別）



性／年齢別にみると、「ある」では、男性の 20 歳代から 40 歳代が 7 割台と多くなっており、50 歳代から 60 歳代では 6 割台、70 歳以上では 5 割台となっている。女性では 20 歳代が 51.0%と最も少なく、年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられる。(図表 1－2)

1-2 健診や人間ドックでの指摘の有無

◎ 何らかの異常の指摘を受けた人は43.4%

(問1で(健診や人間ドックの受診経験が)「ある」と答えた方にうかがいます。)

問1-(1) 健診や人間ドックの結果、肥満、高血圧症(血圧が高い)、糖尿病(血糖が高い)、血中の脂質異常※に関する指摘を受けましたか。(健診結果にあわせて書面に、「血圧が高めなので、塩分の摂取を控えましょう」「再検査を受けてください」等記載されている場合を含みます。)(○は1つ)

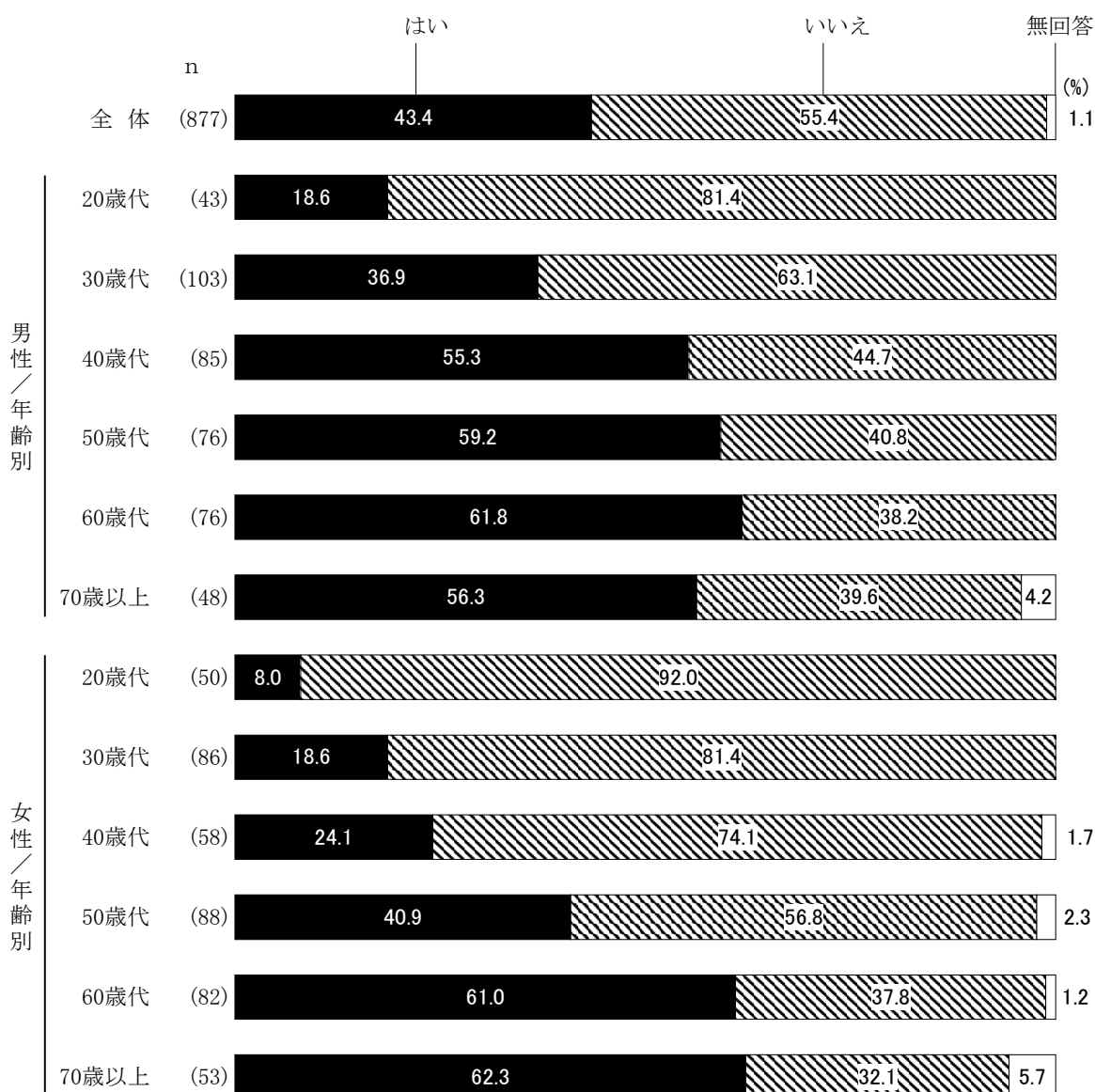
図表1-3 検診や人間ドックでの指摘の有無



※血中の脂質異常：総コレステロール、LDL（悪玉）コレステロールや中性脂肪が高い、または、HDL（善玉）コレステロールが低いこと

受診の結果、何らかの異常の指摘を受けた人「はい」は43.4%、受けていない人「いいえ」は55.4%となっている。(図表1-3)

図表1-4 検診や人間ドックでの指摘の有無（性／年齢別）



性／年齢別にみると、60歳代までは女性より男性の方が指摘を受けた人の割合が多くなっている。男性では40歳以上、女性では60歳以上で異常の指摘を受けた人が多くなっている。（図表1-4）

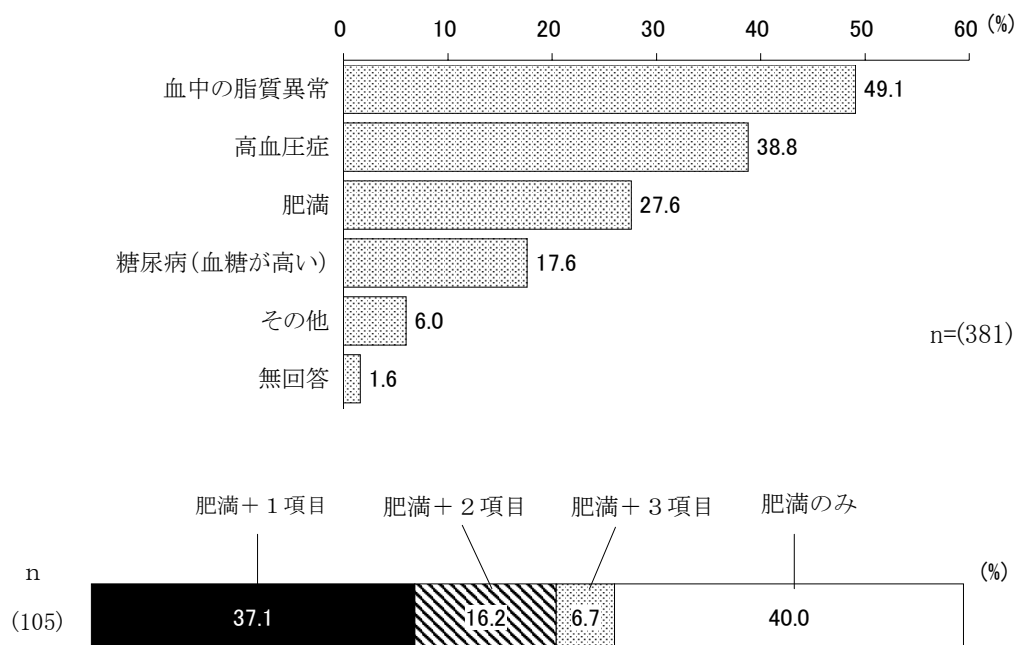
1-3 検診や人間ドックでの指摘の内容

◎ 指摘の内容は、「血中の脂質異常」が49.1%、「高血圧症」が38.8%が多い

(問1-(1)で(健診や人間ドックでの指摘の有無に)「はい」と答えた方にうかがいます。)
問1-(1)-① 次のどのようなことについて、指摘を受けましたか。

(あてはまるものすべてに○)

図表1-5 検診や人間ドックでの指摘の内容



※血中の脂質異常：総コレステロール、LDL（悪玉）コレステロールや中性脂肪が高い、または、HDL（善玉）コレステロールが低いこと

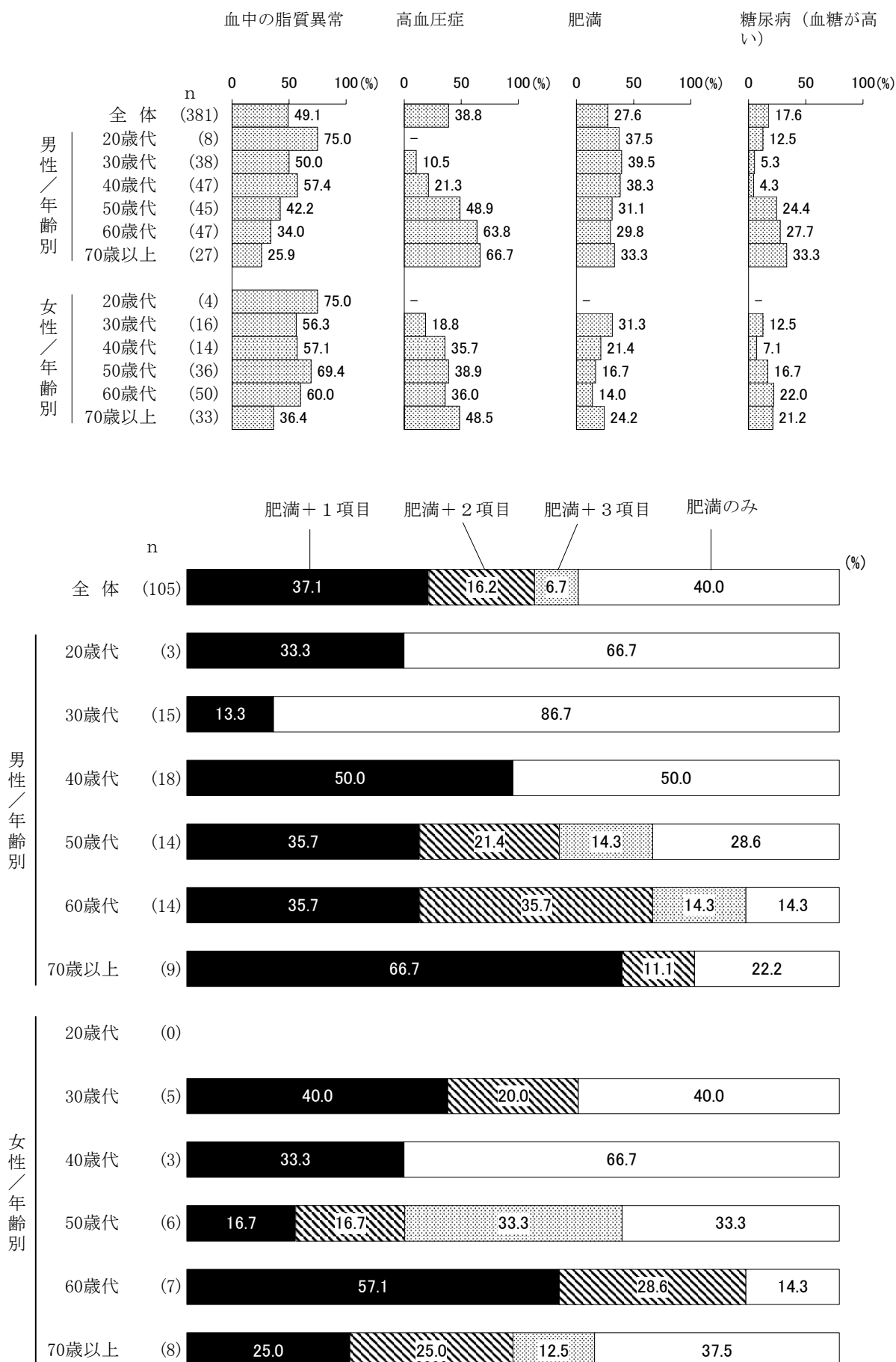
指摘の内容は、「血中の脂質異常」が49.1%で最も多く、以下「高血圧症」(38.8%)、「肥満」(27.6%)、「糖尿病(血糖が高い)」(17.6%)と続いている。

「肥満」と回答した人が、「肥満」以外にプラスして指摘された内容は、「肥満+1項目」が37.1%、「肥満+2項目」(16.2%)、「肥満+3項目」が6.7%となっており、これらをあわせると肥満に1項目以上のプラスのある方は6割、「肥満のみ」は4割となっている。(図表1-5)

性/年齢別では、「血中の脂質異常」は女性の方が全体的に割合が多くなっており、50歳代と60歳代で6割台となっている。「高血圧症」は男性の方が全体的に割合が多く、60歳以上で6割を超えている。女性でも70歳以上で5割弱となっている。また、「肥満」及び「糖尿病(血糖が高い)」でも全体的に男性の方が割合が多い。

また、「肥満」以外の指摘項目は基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-6)

図表1-6 検診や人間ドックでの指摘の内容(性/年齢別)



1-4 保健指導の有無

◎ 指摘を受けた後で、保健指導を受けた人は、58.5%

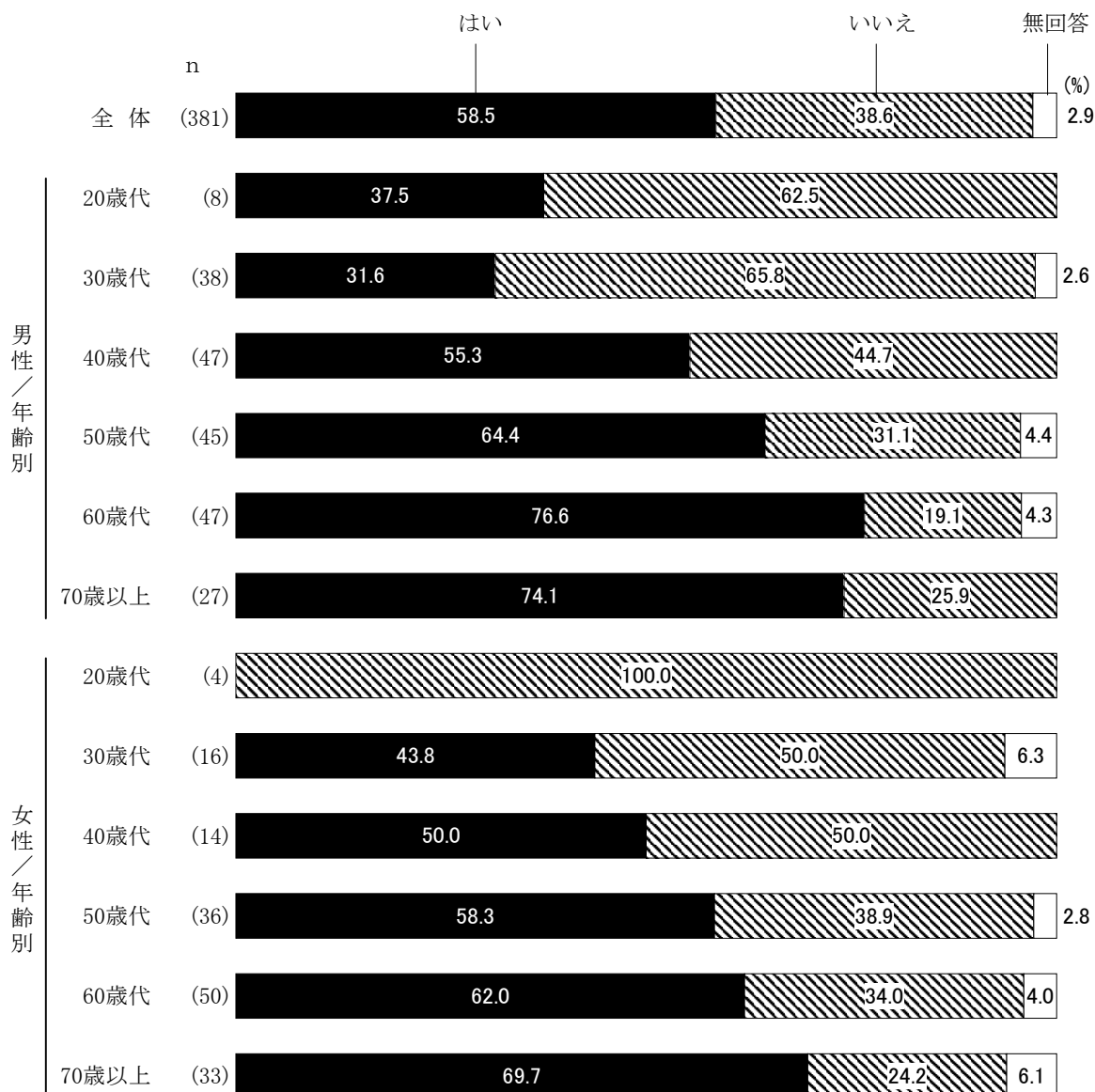
(問1-(1)で(健診や人間ドックでの指摘の有無に)「はい」と答えた方にうかがいます。)
問1-(1)-② 指摘を受けたことについて、保健指導(食事や生活習慣の改善の指導)を受けましたか。(医療機関で受けた指導も含みます。)(○は1つ)

図表1-7 保健指導の有無



指摘を受けた後で、保健指導を受けた人「はい」は、58.5%、受けていない人「いいえ」は38.6%となっている。(図表1-7)

図表 1－8 保健指導の有無（性／年齢別）



性／年齢別では、男女とも高齢であるほど指導を受けた人「はい」が多くなっており、男性の 60 歳以上では 7 割以上、女性の 60 歳以上で 6 割以上となっている。（図表 1－8）

1-5 保健指導内容の実施状況

◎ 保健指導を受けた内容を「おおむね実行している」が60.1%

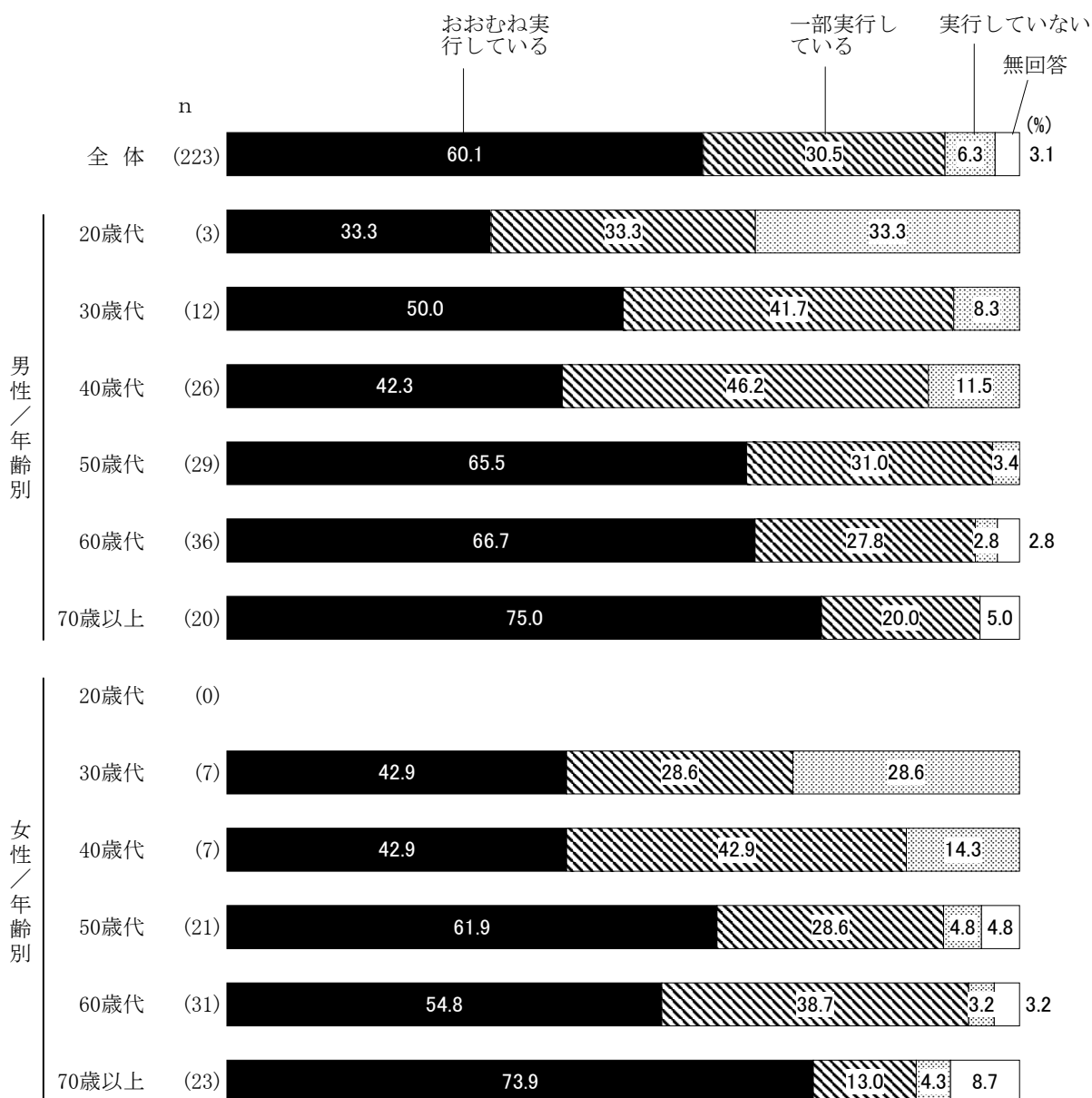
(問1-(1)-②で(保健指導の有無に)「はい」と答えた方にうかがいます。
問1-(1)-②-1 指摘された内容についてどの程度実行していますか。(○は1つ)

図表1-9 保健指導内容の実施状況



保健指導を受けた内容をどの程度実行しているかでは、「おおむね実行している」が60.1%、「一部実行している」が30.5%で、これをあわせた約9割の人が＜実行している＞と回答している。(図表1-9)

図表1-10 保健指導内容の実施状況（性／年齢別）



性／年齢別では、基数が少ないため、参考程度とするが、高齢であるほど＜実行している＞割合が多い。(図表1-10)

1-6 医療機関の受診勧告の有無

◎ 指摘を受けた後、最終的に、医療機関を受診するように勧められた人は39.9%

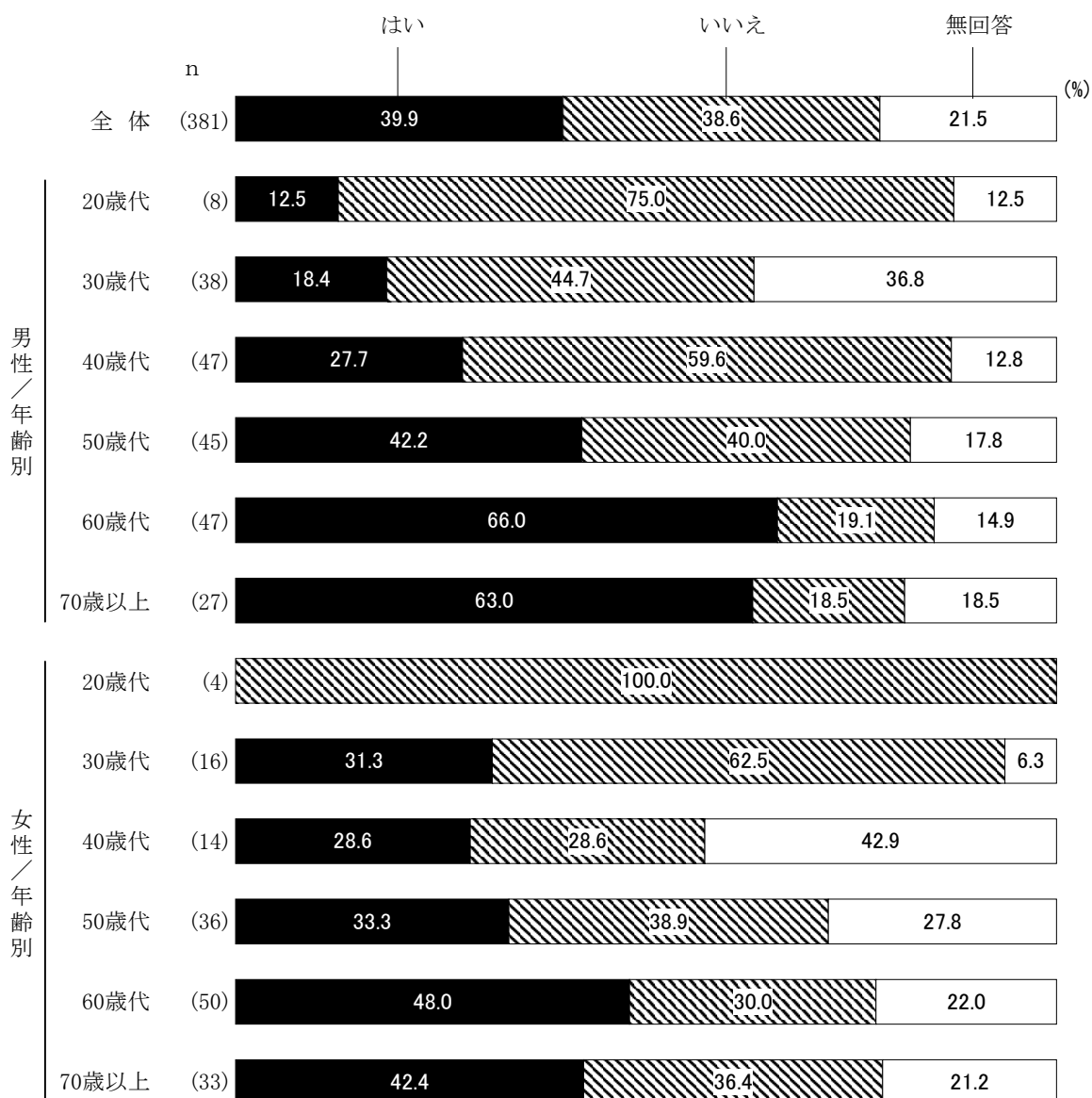
(問1-(1)で(健診や人間ドックでの指摘の有無に)「はい」と答えた方にうかがいます。)
問1-(1)-③ 最終的に、医療機関を受診するように勧められましたか。(検査目的の受診は除きます。)(○は1つ)

図表1-11 医療機関の受診勧告の有無



指摘を受けた後、最終的に、医療機関を受診するように勧められた「はい」は39.9%、勧められなかった「いいえ」は38.6%となっている。(図表1-11)

図表 1-12 医療機関の受診勧告の有無（性／年齢別）



性／年齢別では、基数が少ないため参考程度とするが、男性の60歳以上で6割以上、女性の60歳以上で4割以上となっており、高齢になるほど受診を勧められている。(図表1-12)

1-7 医療機関の受診状況

◎ 受診勧告を受けた後に、医療機関に行った人は83.6%

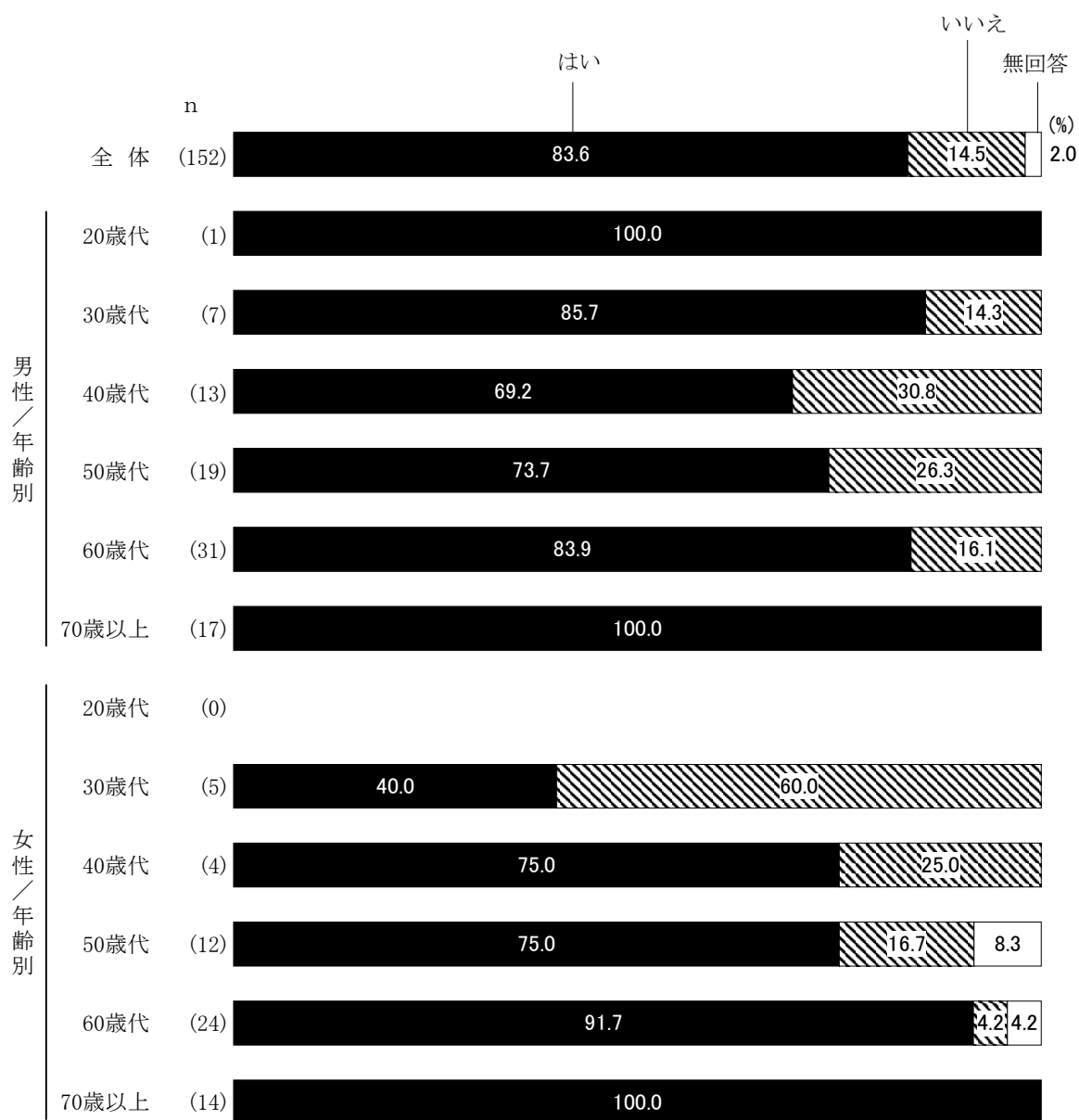
(問1-(1)-③で(医療機関の受診勧告の有無に)「はい」と答えた方にうかがいます。)
問1-(1)-③-1 その後、医療機関に行きましたか。(○は1つ)

図表1-13 医療機関の受診状況



受診勧告を受けた後に、医療機関に行った「はい」は83.6%、行かなかった「いいえ」は14.5%となっている。(図表1-13)

図表1-14 医療機関の受診状況（性／年齢別）



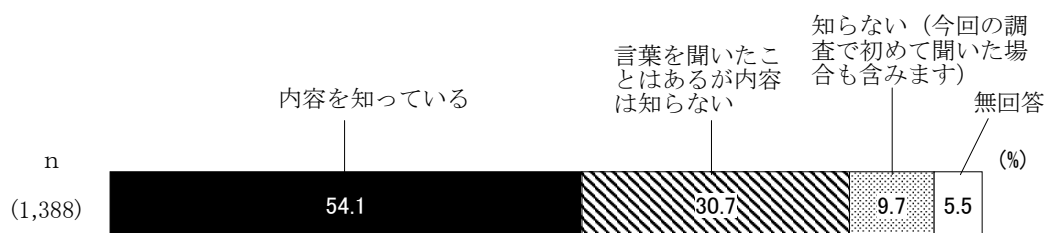
性／年齢別では、基数が少ないため図表を参考程度にとどめる。（図表1-14）

1-8 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の認知状況

◎ 「内容を知っている」は54.1%

問2 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）とは、「内臓脂肪が蓄積することによって、血圧、血糖が高くなったり、血中の脂質異常※をおこしたりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態」のことで、この内容を知っていますか。（○は1つ）

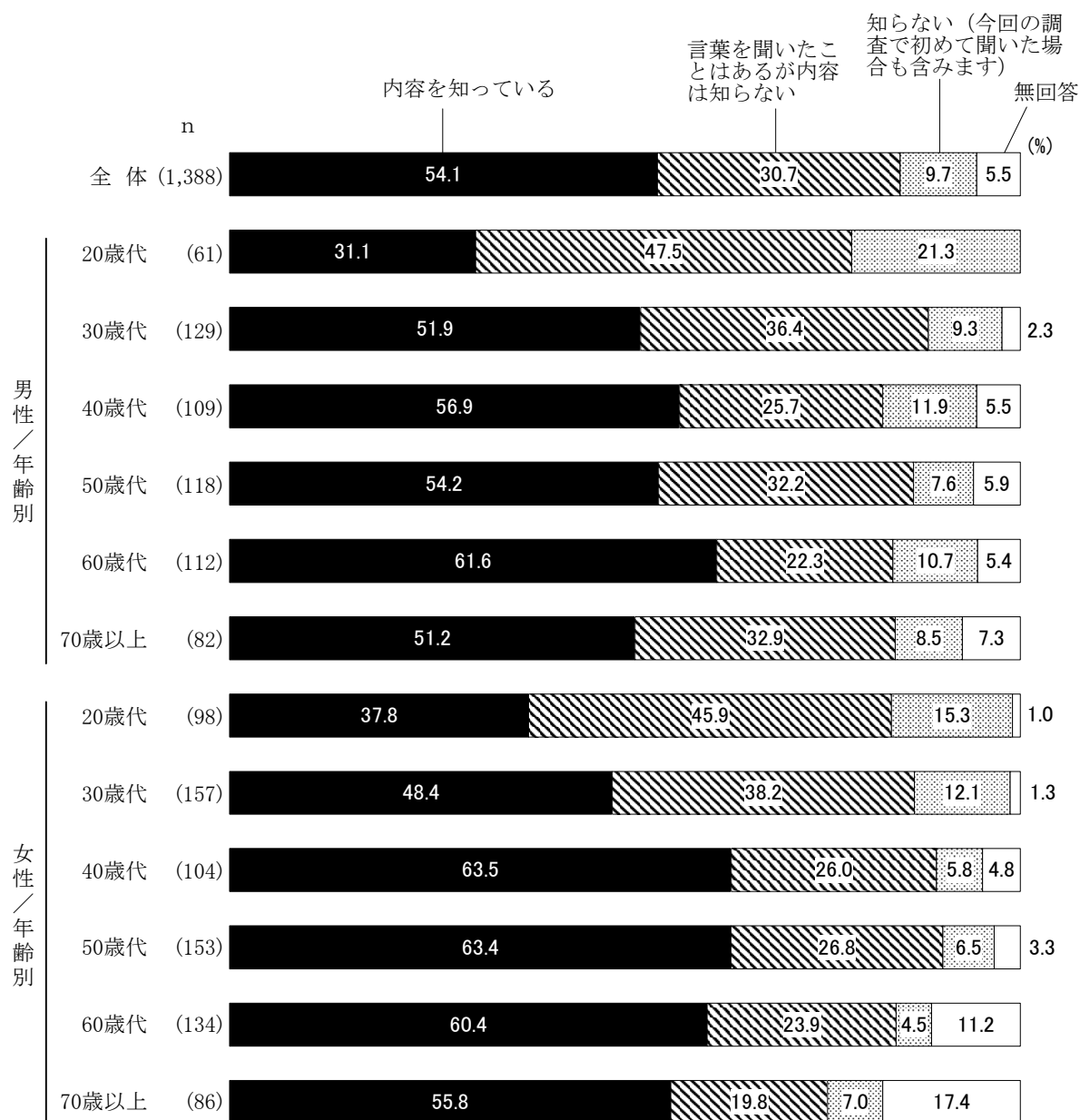
図表1-15 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の認知状況



※血中の脂質異常：総コレステロール、LDL（悪玉）コレステロールや中性脂肪が高い、または、HDL（善玉）コレステロールが低いこと

内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の内容の認知状況では、「内容を知っている人」は54.1%となっている。これに「言葉を聞いたことはあるが内容は知らない」（30.7%）をあわせると、内容はともかく言葉だけは聞いたことがあるという人は8割以上となっている。（図表1-15）

図表1-16 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の認知状況（性／年齢別）



性／年齢別では、「内容を知っている」は男女ともに40歳以上で半数を超えているが、20歳代では3割台と少なくなっている。(図表1-16)

1-9 がん検診の受診状況

◎ がん検診を受けたことが「ある」は29.3%

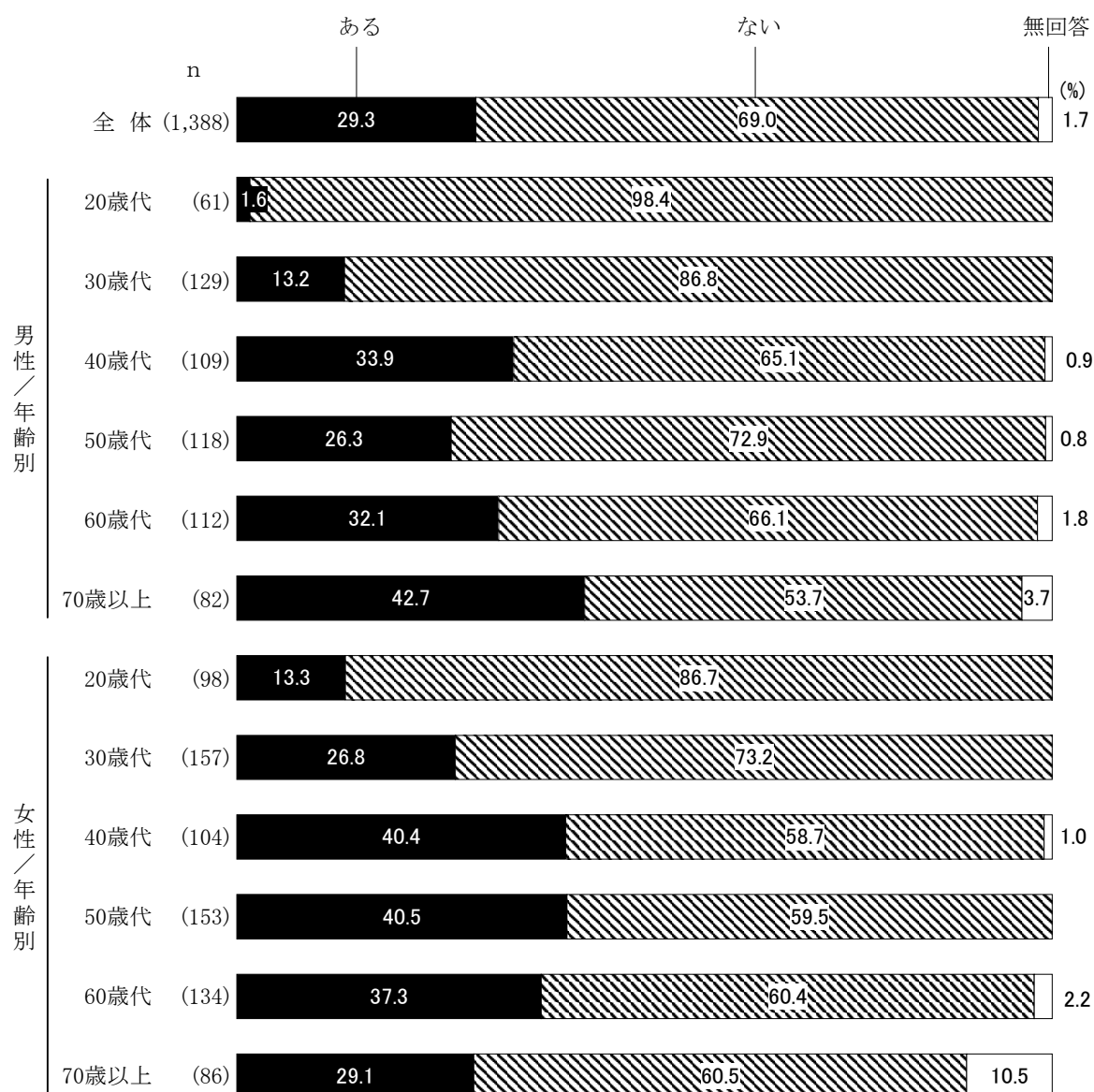
問3 この1～2年の間に健診や人間ドックなどで、がんの検診を受けたことがありますか。
(○は1つ)

図表1-17 がん検診の受診状況



がん検診を受けたことが「ある」は29.3%、「ない」人は69.0%となっている。(図表1-17)

図表1-18 がん検診の受診状況（性／年齢別）



性／年齢別では、「ある」は男性の20歳代と30歳代で少なく、70歳以上で4割強、40歳代と60歳代で3割台となっている。女性でも20歳代と30歳代で少なく、60歳代で3割台、40歳代と50歳代で4割を超えており、性／年齢別によって受診状況に差がみられる。(図表1-18)

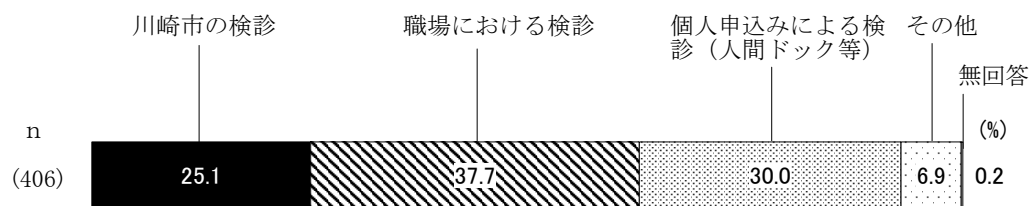
1-10 がん検診の受診の機会

- ◎ 「職場における検診」が37.7%と「個人申込みによる検診(人間ドック等)」が30.0%、「川崎市の検診」は25.1%

(問3で(がん検診を受けたことが)「ある」と答えた方にうかがいます。)

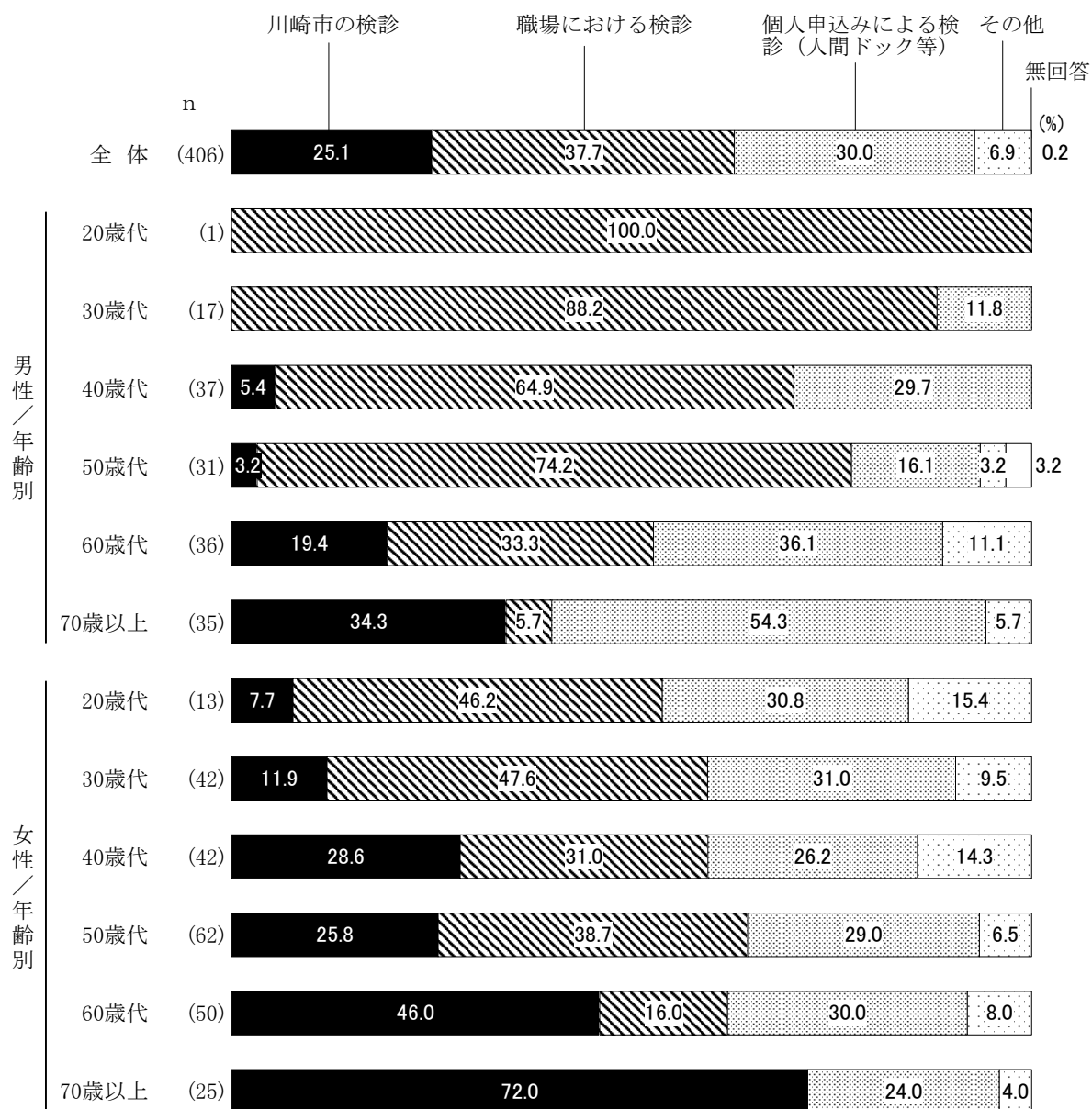
問3-(1) どのような機会にがんの検診を受けましたか。(〇は1つ)

図表1-19 がん検診の受診の機会



がん検診を受診した人に、その機会を聞いたところ、「職場における検診」(37.7%)、「個人申込みによる検診(人間ドック等)」(30.0%)が3割台となっており、「川崎市の検診」は25.1%となっている。(図表1-19)

図表 1-20 がん検診の受診の機会（性／年齢別）



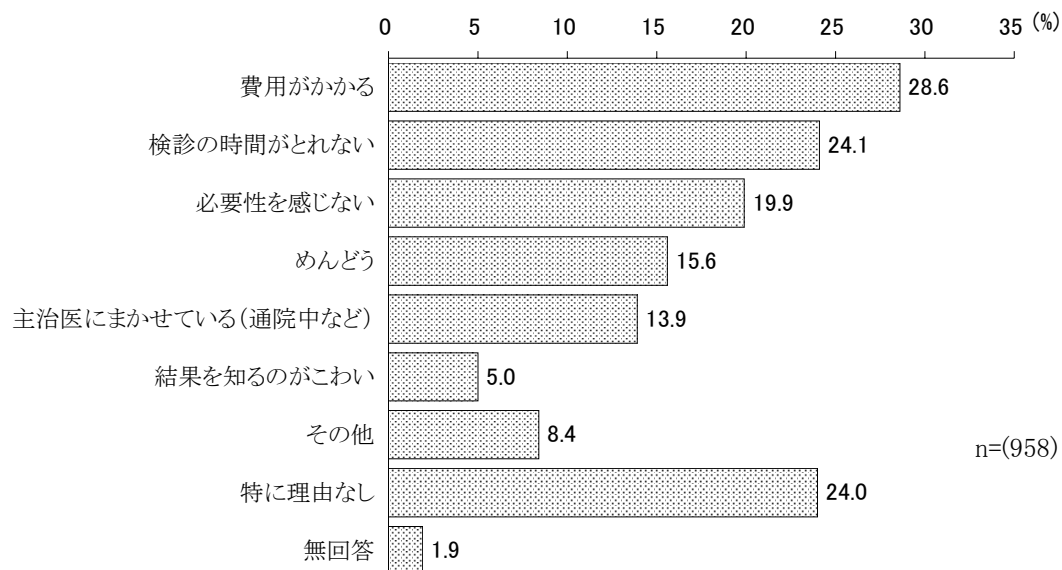
性／年齢別では、男女ともに20歳代から50歳代では「職場における検診」が多くなっており、男性の方が割合が多い。他に、男性の60歳以上では「個人申込みによる検診（人間ドック等）」が多く、女性の60歳以上では、「川崎市の検診」が多くなっている。（図表1-20）

1-11 がん検診を受診しない理由

◎ 「費用がかかる」が28.6%、「検診の時間がとれない」が24.1%

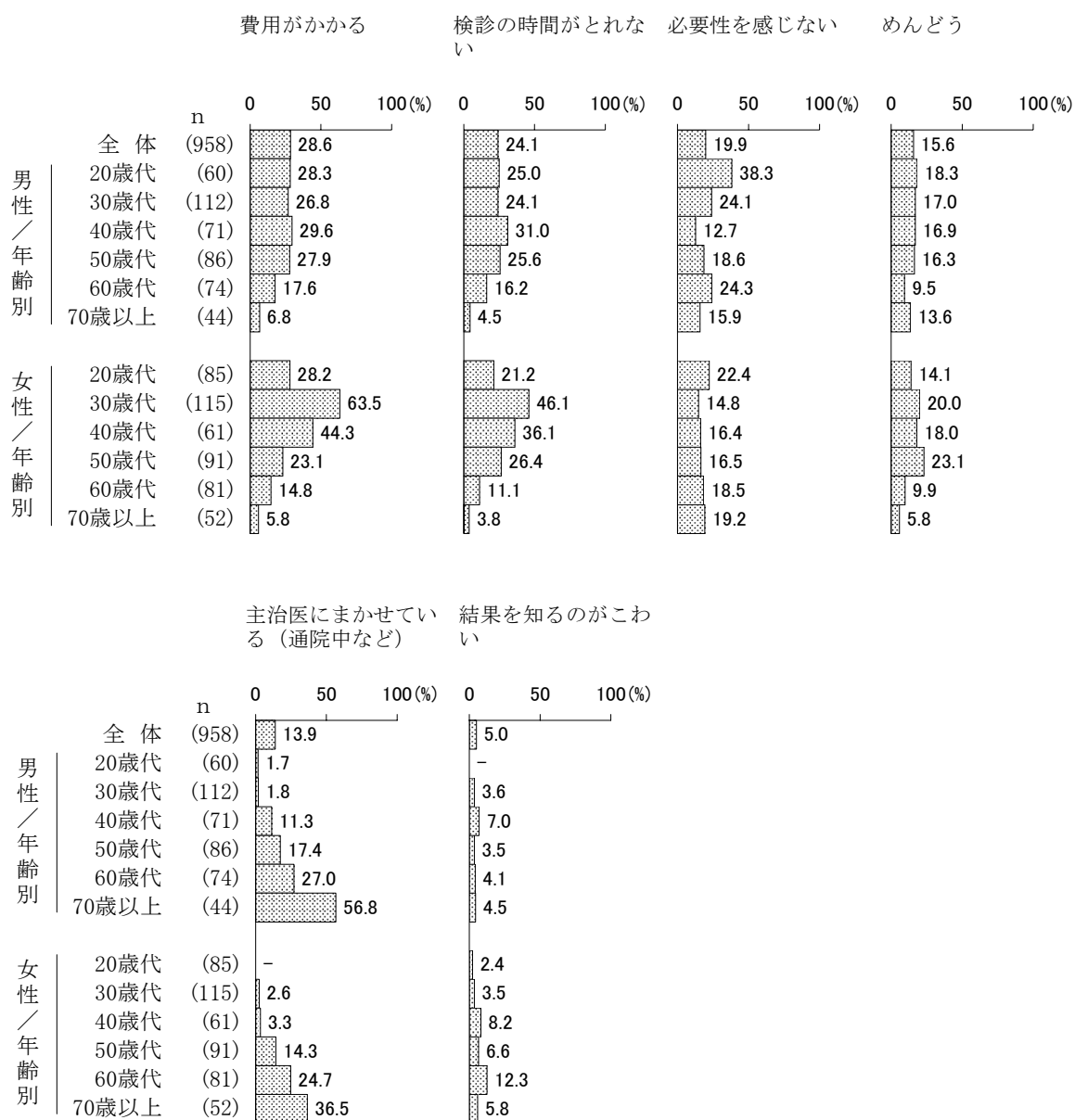
(問3で(がん検診を受けたことが)「ない」と答えた方にうかがいます。)
問3-(2) がんの検診を受けない理由は何ですか。(○は3つまで)

図表1-21 がん検診を受診しない理由



がん検診を受けない理由は、「費用がかかる」が28.6%で最も多く、以下「検診の時間がとれない」(24.1%)、「必要性を感じない」(19.9%)、「めんどく」(15.6%)と続いている。(図表1-21)

図表1-22 がん検診を受診しない理由（性／年齢別）



性／年齢別では、「費用がかかる」は女性の30歳代で6割台、40歳代で4割台と多くなっている。「検診の時間がとれない」は女性の30歳代で4割台となっており、また男女ともに40歳代と50歳代で多くなっている。「必要性を感じない」は男性の20歳代と60歳代、女性の20歳代で多くなっている。「主治医にまかせている（通院中など）」は男女ともに70歳以上で多くなっており、男性では半数を超えている。（図表1-22）

1-12 「食育」の認知状況

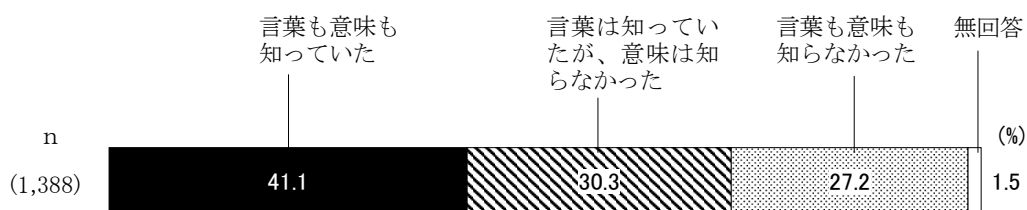
◎ 「言葉も意味も知っていた」は41.1%

川崎市では、平成19年度に「食育基本計画」の策定を予定しています。「食育」について、以下の問にお答えください。

問4 「食育」とは、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけ、様々な経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること（食育基本法）」です。

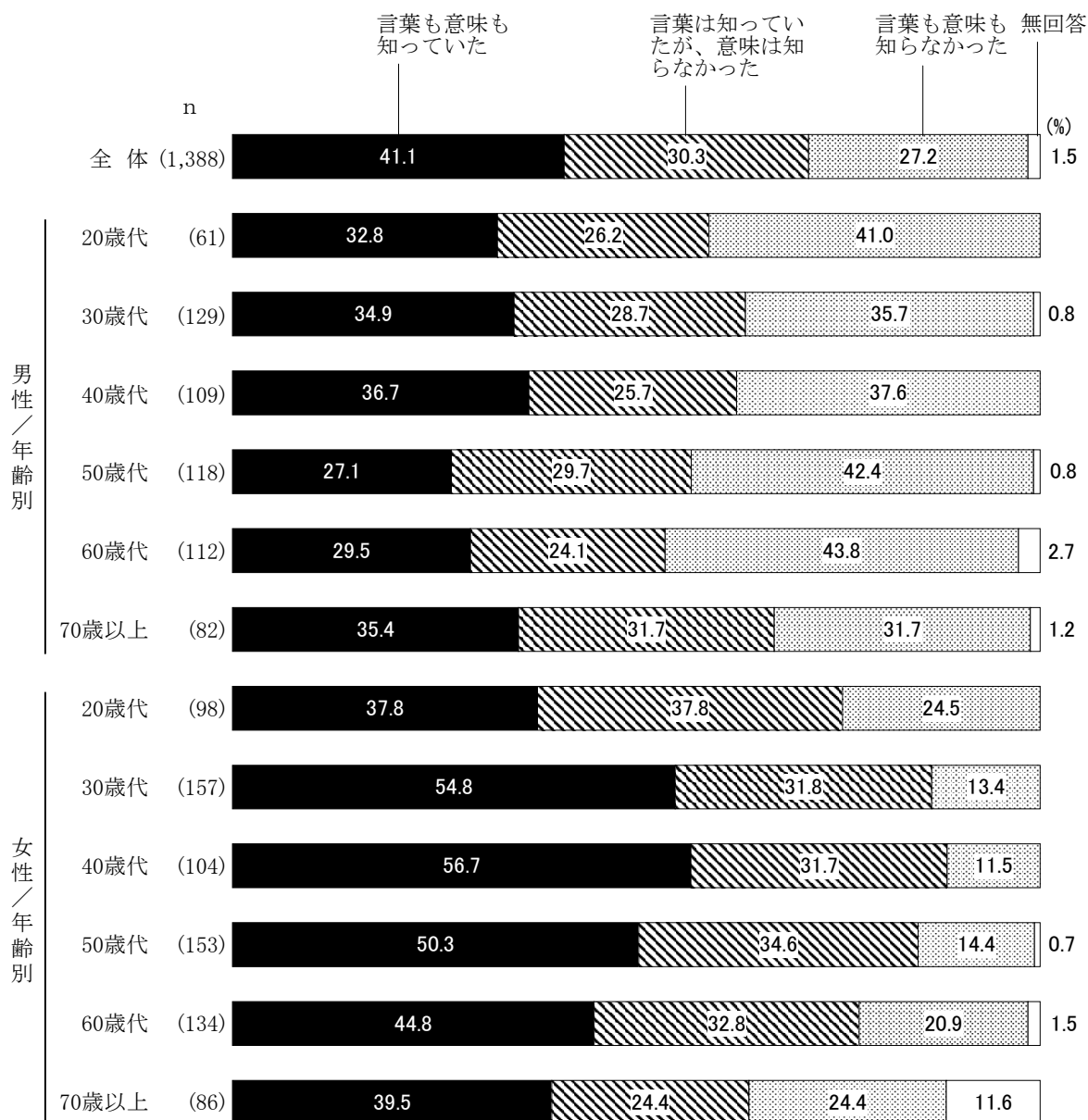
「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。（○は1つ）

図表1-23 「食育」の認知状況



「食育」という言葉やその意味の認知状況では、「言葉も意味も知っていた」は41.1%、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」は30.3%となっている。また、「言葉も意味も知らなかった」は27.2%となっている。（図表1-23）

図表1-24 「食育」の認知状況（性／年齢別）



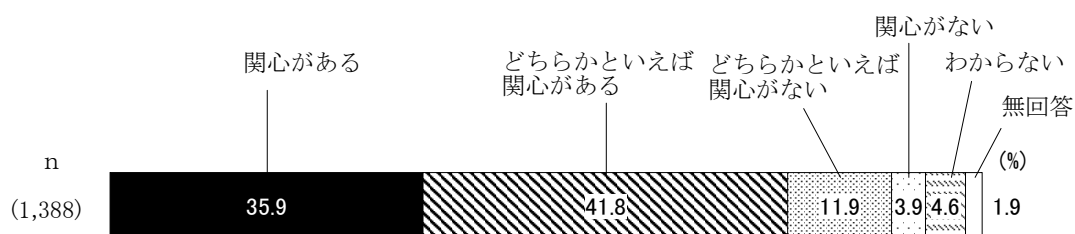
性／年齢別では、「言葉も意味も知っていた」は男性が2割から3割程度で推移しているのに対して、女性の方が割合が多くなっており、特に30歳代から50歳代では5割台となっている。「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」も同様に、70歳未満で男性が2割台、女性が3割台で女性の方が割合が多くなっている。(図表1-24)

1-13 「食育」への関心の有無

◎ <関心がある>は77.7%

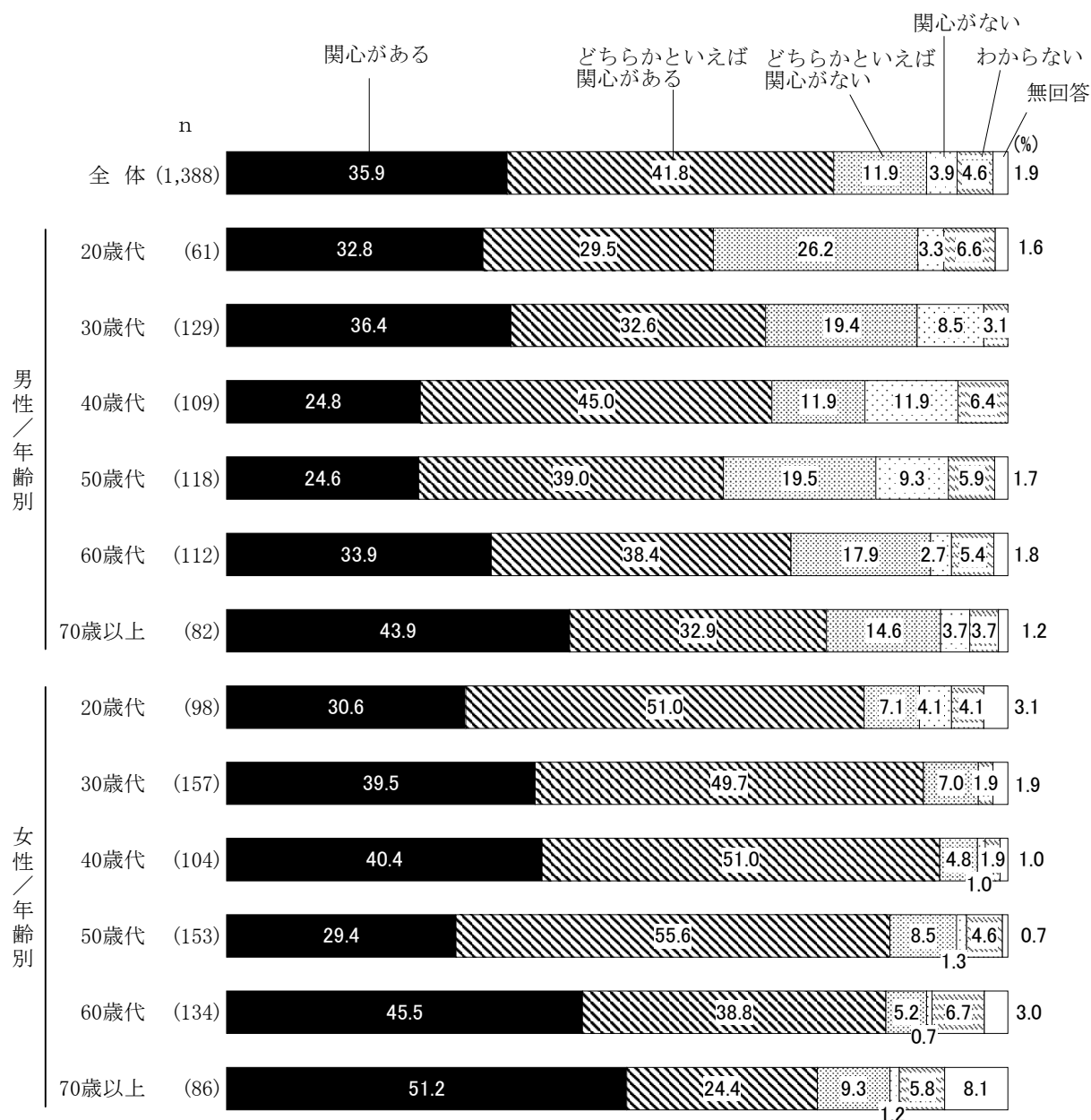
問5 あなたは「食育」に関心がありますか。(○は1つ)

図表1-25 「食育」への関心の有無



「食育」への関心の有無では、「関心がある」(35.9%)と「どちらかといえば関心がある」(41.8%)をあわせた<関心がある>は77.7%となっており、「関心がない」(3.9%)、「どちらかといえば関心がない」(11.9%)をあわせた<関心がない>は15.8%となっている。(図表1-25)

図表1-26 「食育」への関心の有無（性／年齢別）



性／年齢別では、男性では60歳以上で7割台、30歳代と40歳代で約7割が「関心がある」と回答している。女性では40歳代と50歳代で9割前後と多く、30歳代、50歳代、60歳代でも8割台と多くなっており、食育への認知状況と同様に、食育への関心でも女性の方が男性よりも全体的に多くなっている。(図表1-26)

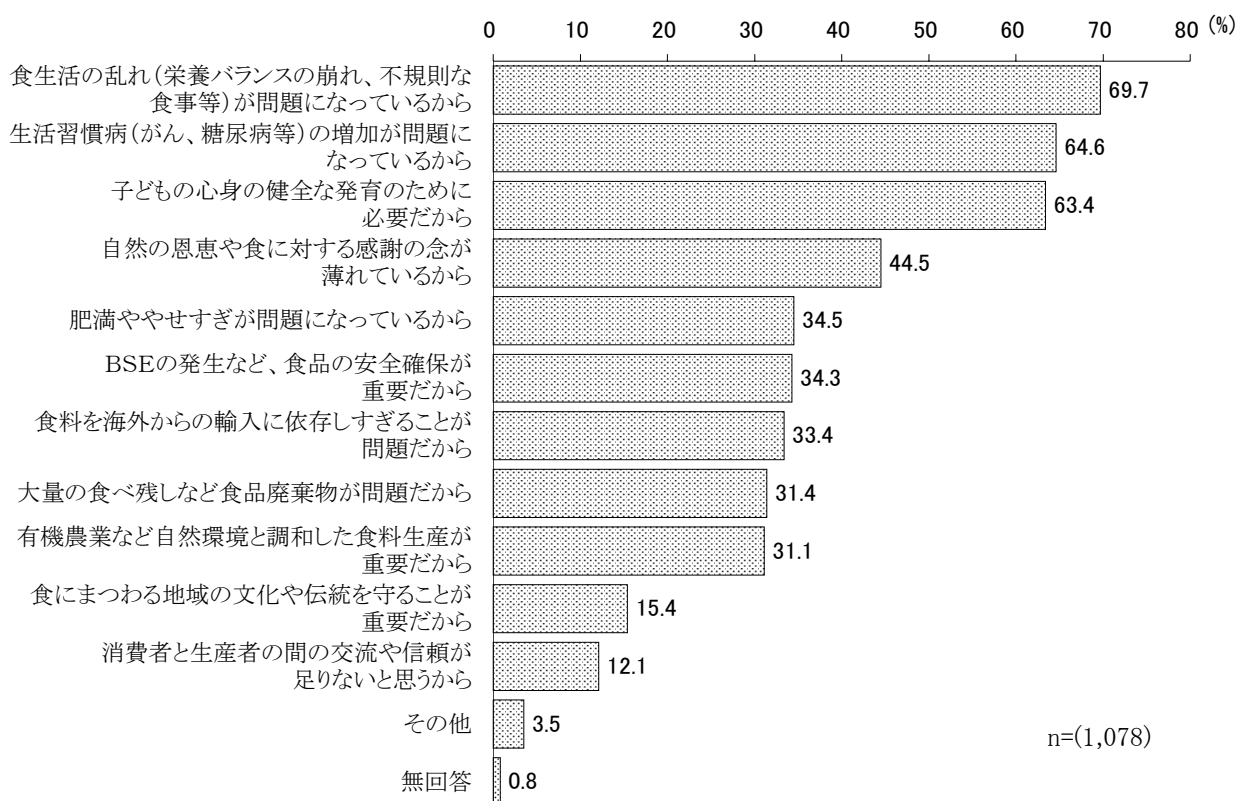
1-14 「食育」に関心がある理由

◎ 「食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから」が69.7%と最も多い

（問5で（食育に）「関心がある」または「どちらかといえば関心がある」と答えた方にうかがいます。）

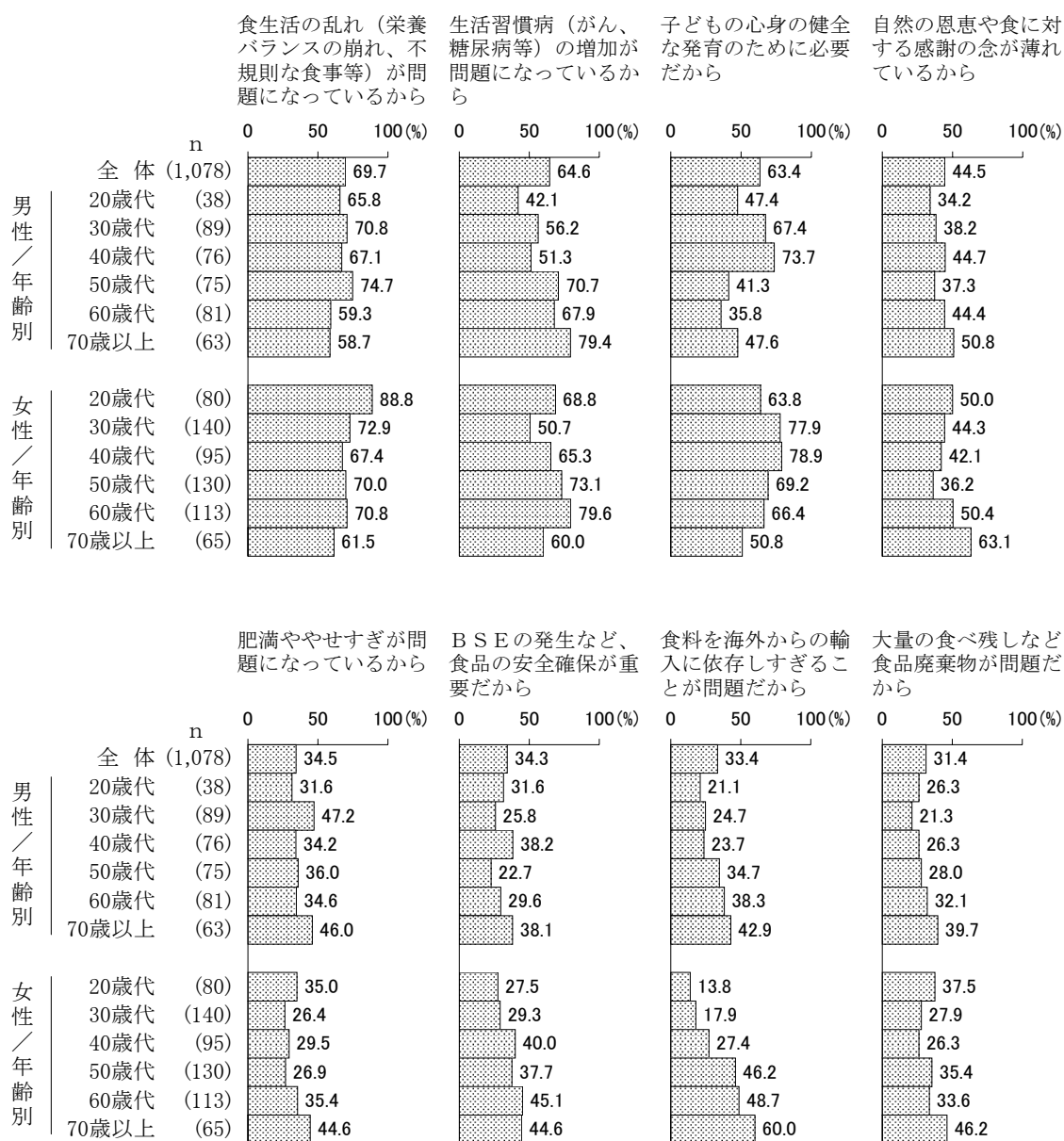
問5-（1） あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表1-27 「食育」に関心がある理由



「食育」に関心がある理由では、「食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから」が69.7%と最も多く、以下、「生活習慣病（がん、糖尿病等）の増加が問題になっているから」（64.6%）、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」（63.4%）、「自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから」（44.5%）などが続いている。（図表1-27）

図表1-28 「食育」に関心がある理由（性／年齢別、上位8項目）



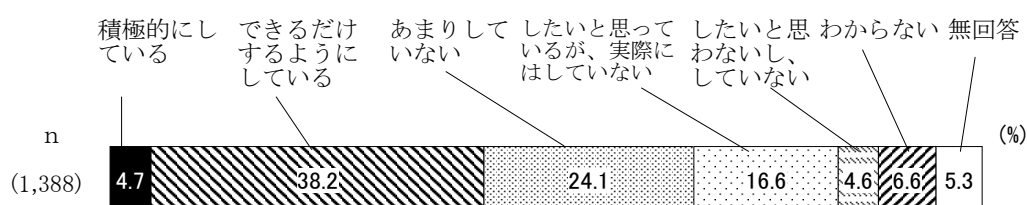
性／年齢別では、「食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから」は男女ともにいずれの年齢でも半数以上と多くなっているが、特に男性の50歳代で7割台半ば、女性の20歳代では9割近くとなっている。「生活習慣病（がん、糖尿病等）の増加が問題になっているから」は男女ともに比較的年齢の高い方で多くあげられており、男性の70歳以上、女性の60歳代で8割近くとなっている。「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は全体的に女性の割合が多くなっており、30歳代と40歳代で8割近くとなっている。「自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから」、「肥満ややせすぎが問題になっているから」、「BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから」、「食料を海外からの輸入に依存しすぎることが問題だから」、「大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから」などでは、男女ともに70歳以上で多くなっている。（図表1-28）

1-15 「食育」に関する活動や行動

◎ <している>は42.9%

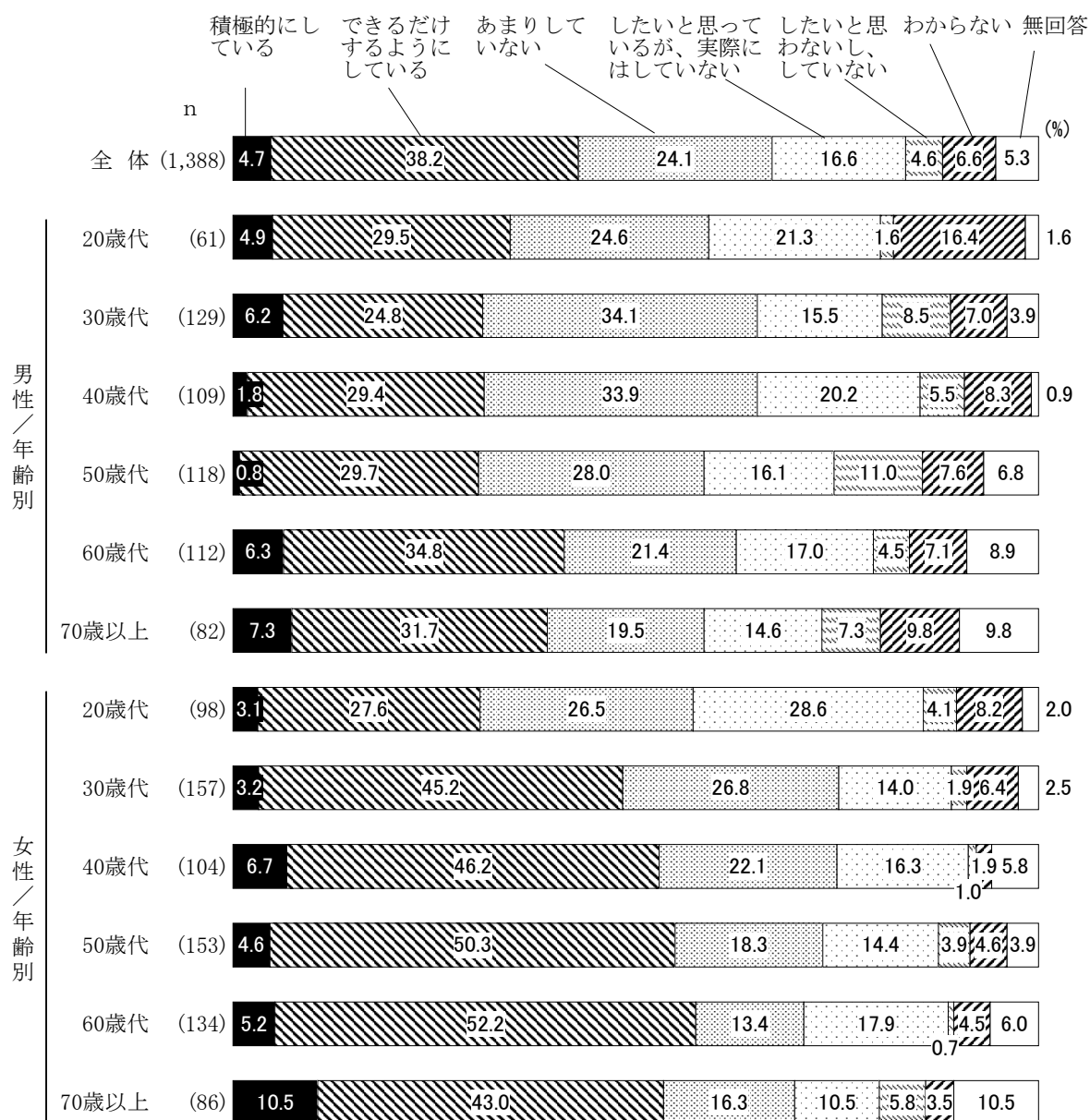
問6 あなたは、日ごろから、健全な食生活を行うために「食育」に関する何らかの活動や行動をしていますか。(〇は1つ)

図表1-29 「食育」に関する活動や行動



「食育」に関する活動や行動では、「積極的にしている」は4.7%にとどまるが、「できるだけするようにしている」(38.2%)をあわせると<している>は42.9%となっている。一方、「あまりしていない」(24.1%)、「したいと思っているが、実際にはしていない」(16.6%)、「したいと思わないし、していない」(4.6%)をあわせたと<していない>は45.3%となっており、<している>と<していない>がほぼ2分されている。(図表1-29)

図表1-30 「食育」に関する活動や行動（性／年齢別）



性／年齢別では、＜している＞は男性の60歳代で4割を超えているが、他の年齢では3割台にとどまっている。女性では40歳以上で半数を超えて多くなっている。＜していない＞は男性の30歳代から50歳代で半数を超え、他の年齢でも4割台となっている。女性では20歳代で6割近く、30歳代と40歳代で4割前後となっている。（図表1-30）

1-16 「食育」に関する活動や行動をしていない理由

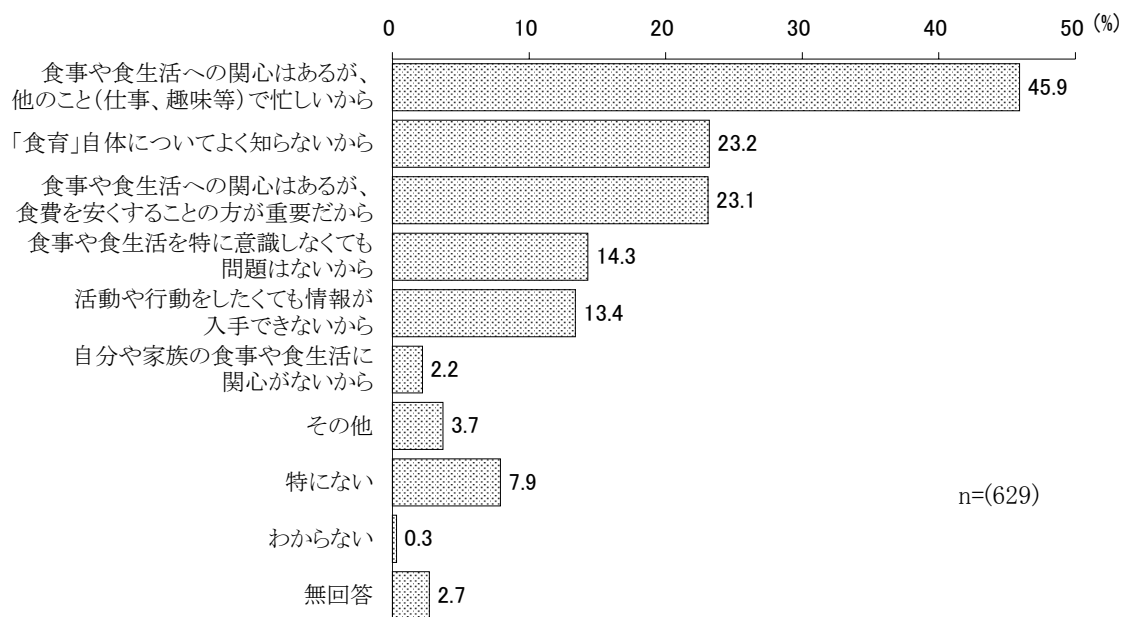
◎ 「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」が45.9%で最も多い

（問6で（食育に関する活動や行動を）「あまりしていない」、「したいと思っているが、実際にはしていない」、「したいと思わないし、していない」と答えた方にうかがいます。）

問6-（1） あなたが食育に関する活動や行動をしていない理由は何ですか。

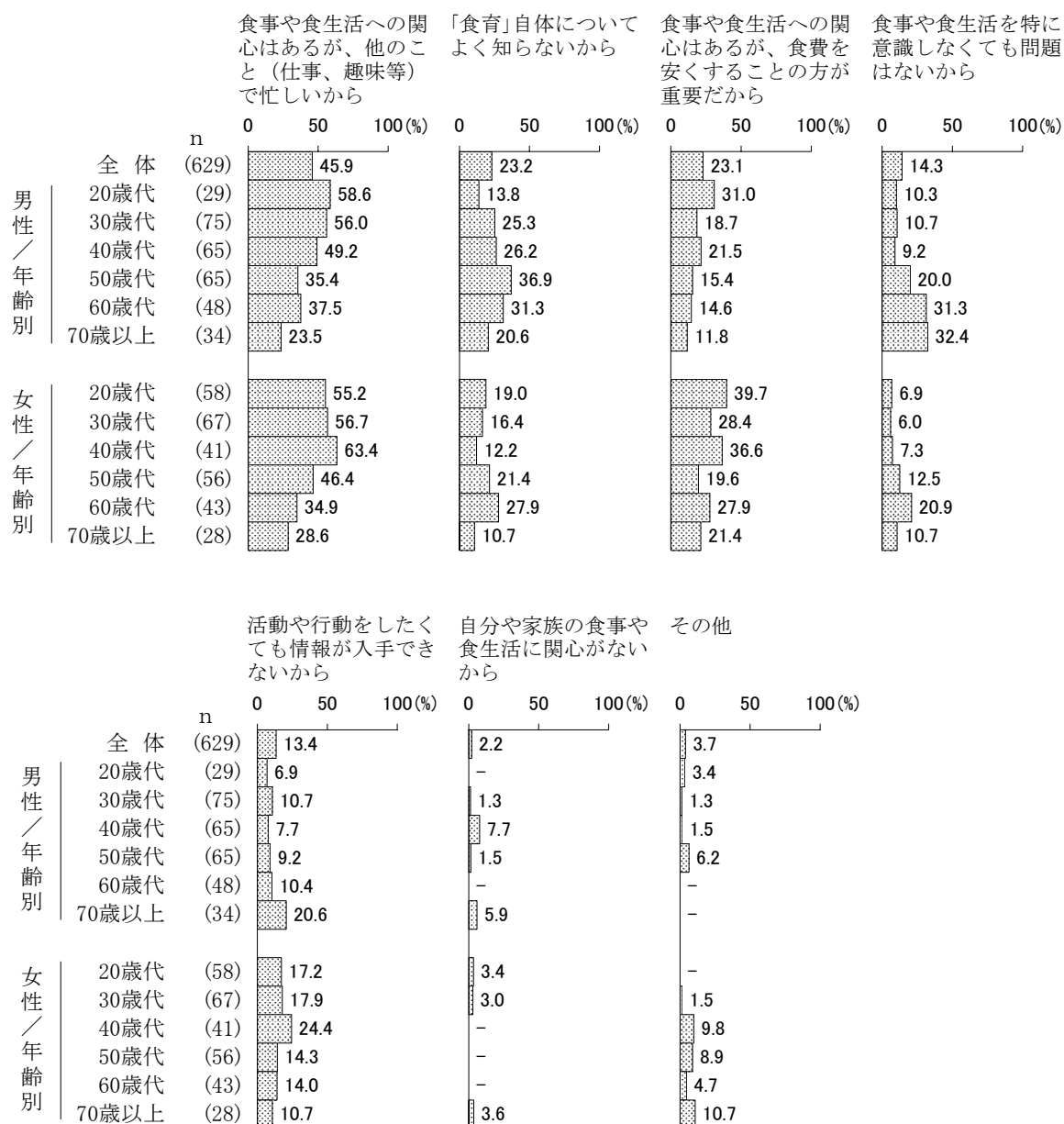
（あてはまるものすべてに○）

図表1-31 「食育」に関する活動や行動をしていない理由



食育に関する活動や行動をしていない理由では、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」が45.9%で最も多く、以下『食育』自体についてよく知らないから（23.2%）、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（23.1%）が2割台で続いている。（図表1-31）

図表1-32 「食育」に関する活動や行動をしていない理由（性／年齢別）



性／年齢別では、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」は男女ともに20歳代から40歳代での割合が多くなっており、特に女性の40歳代で6割を超えている。

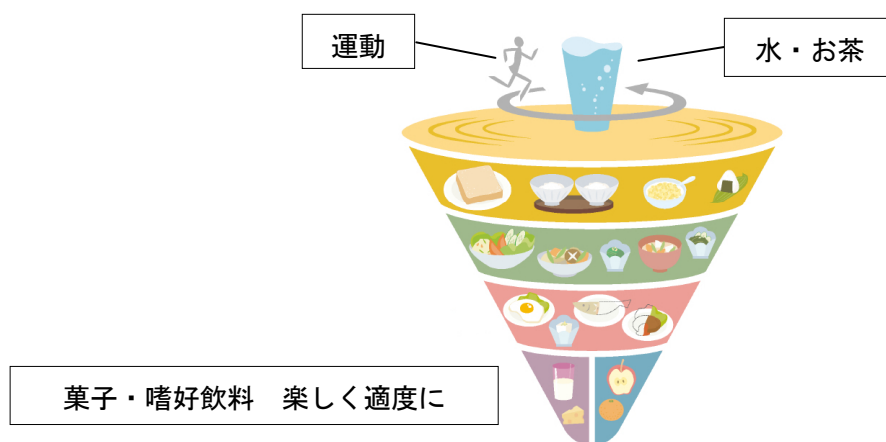
「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」は男性の20歳代、女性の20歳代、40歳代でも3割台となっている。「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」は男性の60歳以上で3割台、女性の60歳で2割と多くなっている。（図表1-32）

1-17 「食事バランスガイド」の認知状況

◎ 見たことが「ある」は24.3%と認知状況はまだ低い

問7 あなたは、コマ型の「食事バランスガイド」(下図)を見たことがありますか。

(○は1つ)

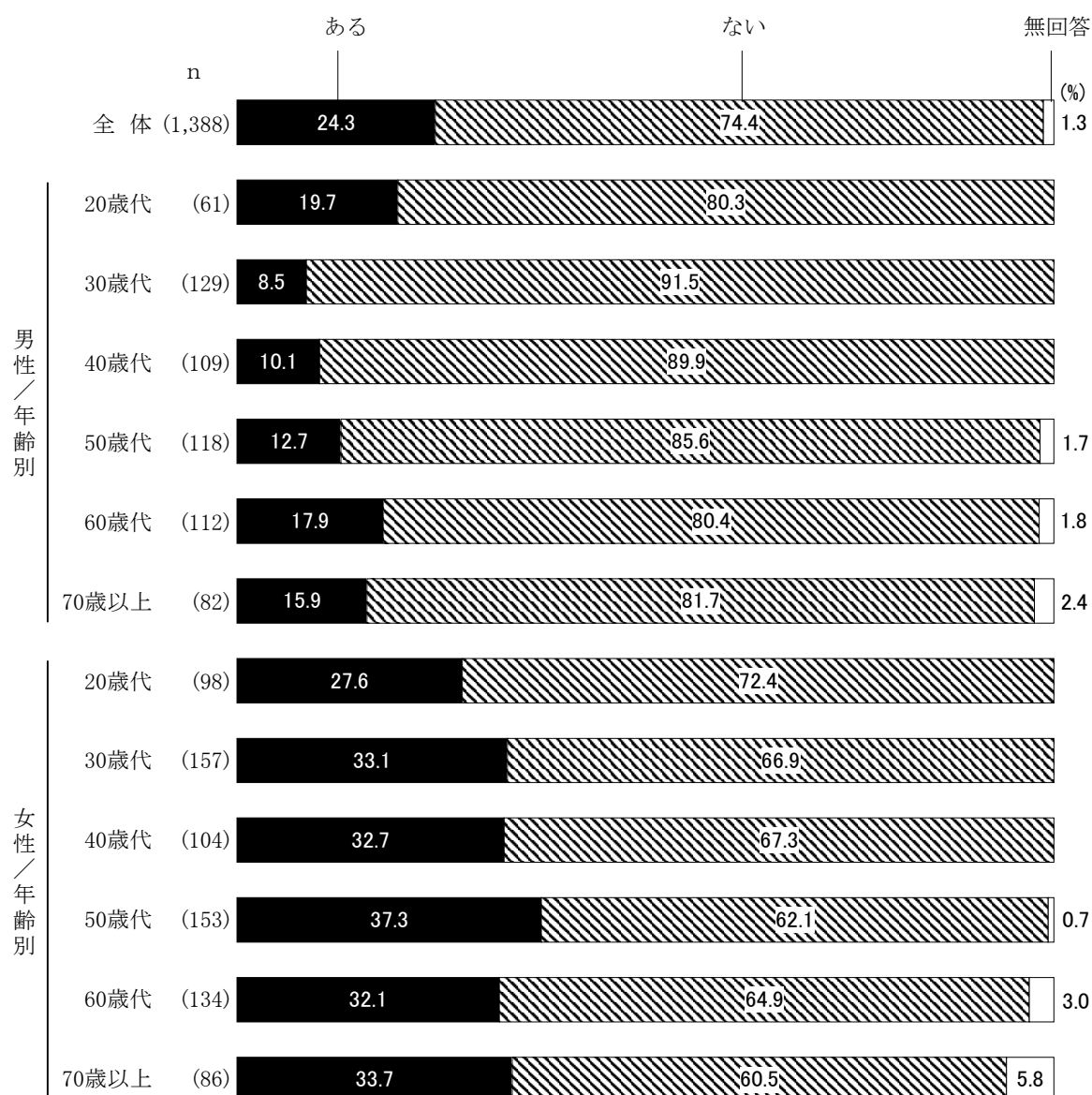


図表1-33 「食事バランスガイド」の認知状況



上図の「食事バランスガイド」を見たことが「ある」は24.3%、「ない」は74.4%となっており、認知状況はまだ低い。(図表1-33)

図表1-34 「食事バランスガイド」の認知状況(性/年齢別)



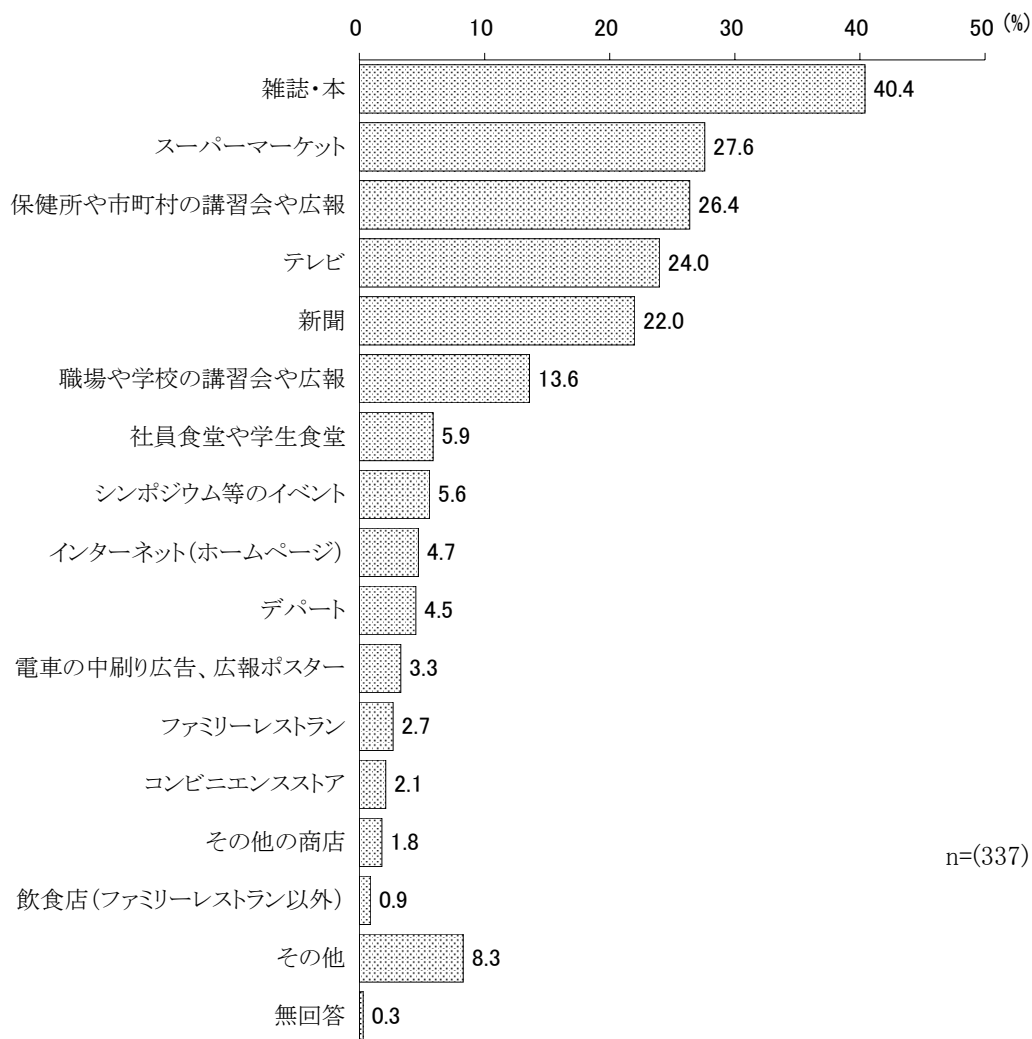
性/年齢別では、いずれの年齢でも「ない」が「ある」を上回っている。「ある」は男性では20歳代で2割近くで他の年齢より多くなっているが、全体的には女性の方の割合が多くなっている。(図表1-34)

1-18 「食事バランスガイド」を見た場所・媒体

◎ 「雑誌・本」が40.4%と最も多い

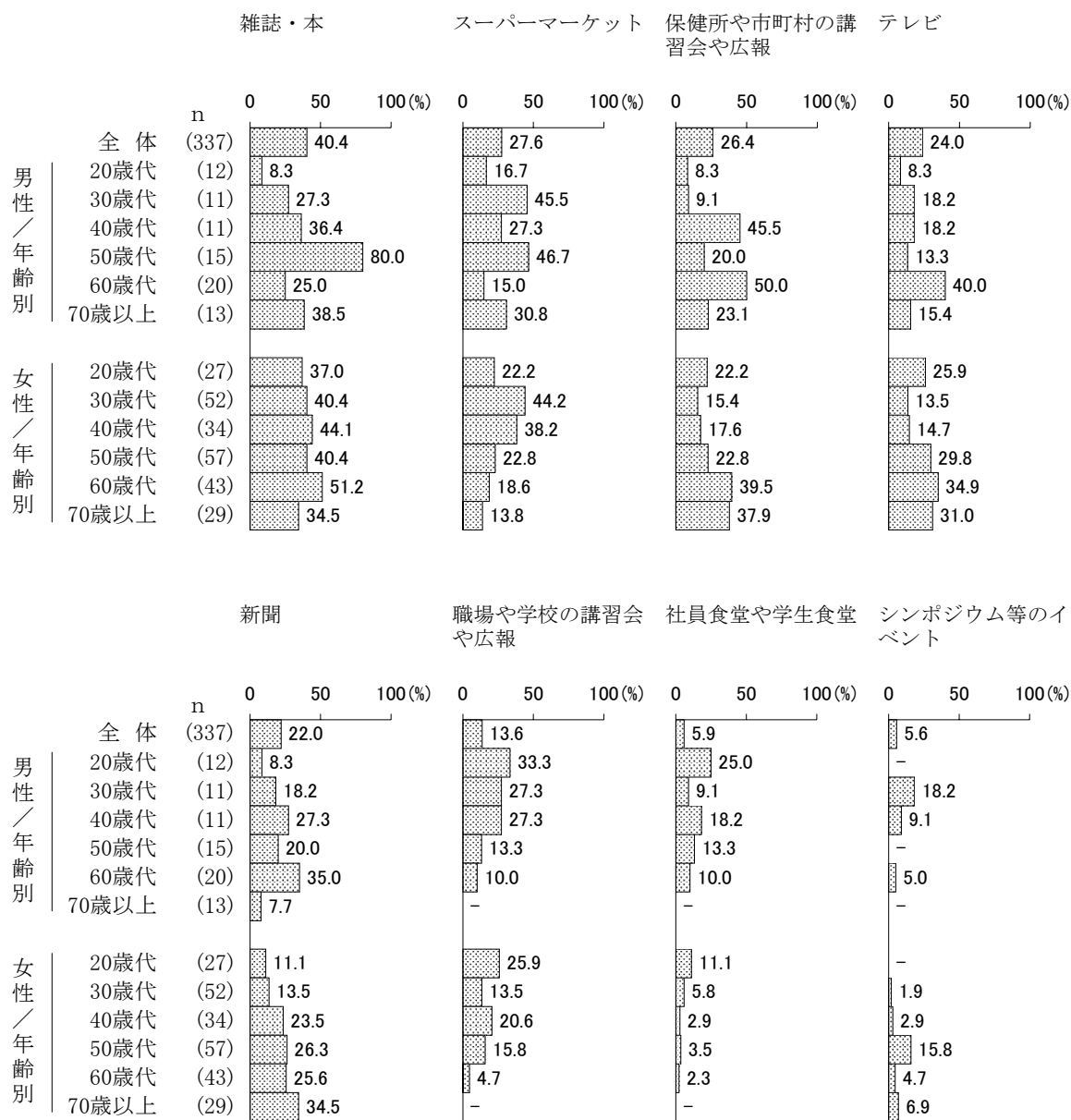
(問7で(「食事バランスガイド」を見たことが)「ある」と答えた方にうかがいます。)
問7-(1) どこであるいは何で見ましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-35 「食事バランスガイド」を見た場所・媒体



「食事バランスガイド」を見た場所・媒体では、「雑誌・本」が40.4%と約4割で最も多い。以下、「スーパーマーケット」(27.6%)、「保健所や市町村の講習会や広報」(26.4%)、「テレビ」(24.0%)、「新聞」(22.0%)が2割台で続いている。(図表1-35)

図表1-36 「食事バランスガイド」を見た場所・媒体（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「雑誌・本」は男性の50歳代が8割、女性の60歳代で半数を超え、30歳代から50歳代でも4割台と多くなっている。「スーパーマーケット」は男女の30歳代、男性の50歳代で4割台となっている。「保健所や市町村の講習会や広報」は男性の60歳代で半数、40歳代でも4割台半ば、女性の60歳以上で4割弱となっている。また、「テレビ」は男女の60歳代で多くなっている。（図表1-36）

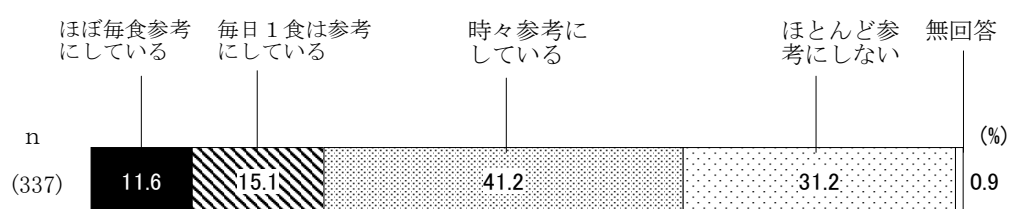
1-19 「食事バランスガイド」の参考状況

◎ 2割台半ばの人が毎日のメニューの参考として取り入れており、「時々参考にしている」は41.2%

(問7で(「食事バランスガイド」を見たことが)「ある」と答えた方にうかがいます。)

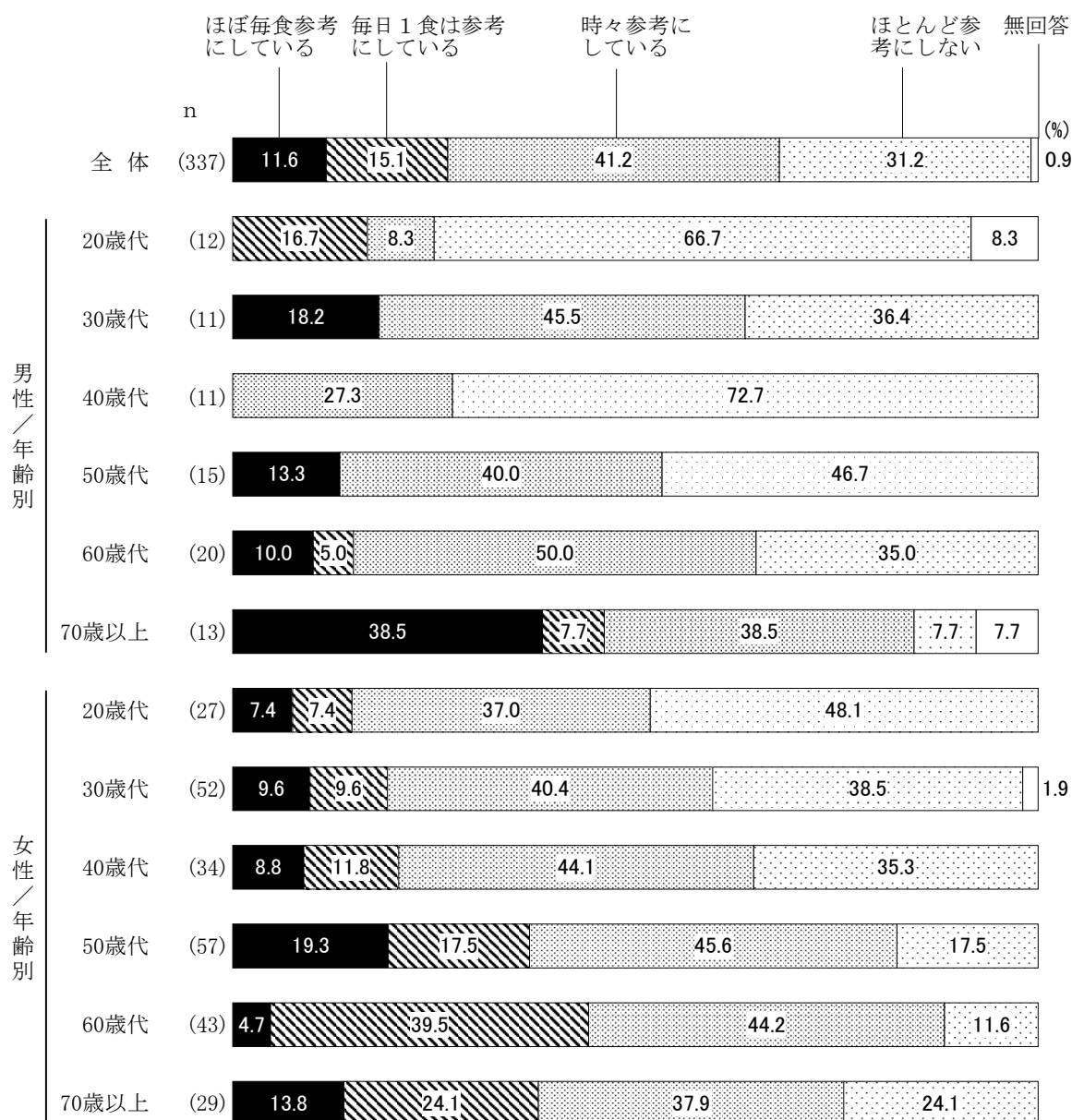
問7-(2) コマ型の「食事バランスガイド」を参考にしてメニューを考えたり、選んだりしますか。(○は1つ)

図表1-37 「食事バランスガイド」の参考状況



「食事バランスガイド」を、「ほぼ毎食参考にしている」は11.6%、「毎日1食は参考にしている」は15.1%で、2割台半ばの人が毎日のメニューの参考として取り入れている。また、毎日ではないが、「時々参考にしている」も41.2%と4割強を占めている。一方、「ほとんど参考にしない」も3割強を占めている。(図表1-37)

図表 1-38 「食事バランスガイド」の参考状況 (性/年齢別)



性/年齢別では、毎日のメニューの参考にしていない人は男性の70歳以上、女性の60歳代が4割半ばで多くなっており、また女性の50歳代と70歳以上でも3割台と比較的多くなっている。(図表1-38)